

令和6年2月
定例県議会
一般質問

県政進展の施策提言

福島県の課題解決に向けた見解引き出す



知事は、震災の記憶と教訓の継承が課題となる中、どのような思いで県政を運営していくのか。

A 内堀知事

私はこれからも、福島の将来を担う子どもたちに様々な取組や機会を通じて、震災の記憶と教訓を確実に継承していくとともに、私たちが現役世代の復興に向けて挑戦する姿勢や思いが世代を超えて引き継がれ、福島復興への確かな道としてつながっていくよう、全力で挑戦を続けていく。

県は、再生可能エネルギーの導入拡大に向け、どのように取り組むのか。

A 企画調整部長

新年度に、再生可能エネルギーである太陽光発電について今後の更なる導入方策等にかかる調査を実施し、令和7年度からの次期アクションプランに反映していく。また、風力発電について、洋上風力の将来導入可能性を探る基礎調査を行うなど、引き続き社会経済情勢等を的確に捉えながら、再生エネの導入拡大に取り組む。

県、洋上風力の適地調査
太陽光も初試算 再生エネ導入拡大へ

県は新年度、再生可能エネルギーの導入拡大... 洋上風力重点整備する調査に乗り出す。将来性は、国の「促進区域」は東北にあり、本県は青森、秋田、山形各県にあり、本県は福島県にあり、洋上風力重点整備する調査に乗り出す。...

令和6年3月1日(金) 福島民友 1面

県は、公金収納におけるキャッシュレス化をどのように進めていくのか。

A 会計管理者

公金収納のキャッシュレス化については現行法で可能な手数料等の科目について、コンビニやスマートフォン決済アプリによる納付を、本庁及び県北管内の執行機関で3月1日から開始し、新年度には、法改正に合わせた対象科目を追加するとともに、運用地域を全県に拡大して進めていく。収入証紙の代替収納方法の検討を進める。

(2面に続く)

ごあいさつ

春暖の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。皆様のおかげで、昨年11月の第20回県議会議員選挙で2期目の当選を果たすことができました。日頃よりお支えいただいた皆様方、今後の活動にご期待をくださっている

皆様方からお一人お一人の声を大切にしながら、2期目の議員活動も県民生活の向上に向けて全力を尽くしてまいります。当選直後の昨年の12月県議会で、新たに福祉公安常任委員会の副委員長に選任され

ました。医療や福祉、子育て、警察行政などを所管する委員会であり、県民生活の安全・安心に直結する職務を担当します。人口減少という県政最大の課題に対応する施策も多く、新聞記者として培った経験、そして、県民目線を忘れずに、県立局に課題解決に向けた施策を提案し、実現を目指していきます。

3月19日に閉会した2月県議会においては、一般質問で登壇する機会をいただきました。安全・安心な県づくり、農林水産業の振興など、ライフワークとして長年訴え続けてきたことのほか、県議選で公約とし、有権者の皆様方に実現に向けた努力を約束した問題などについて県立局の考えをいただきました。再生可

ました。医療や福祉、子育て、警察行政などを所管する委員会であり、県民生活の安全・安心に直結する職務を担当します。人口減少という県政最大の課題に対応する施策も多く、新聞記者として培った経験、そして、県民目線を忘れずに、県立局に課題解決に向けた施策を提案し、実現を目指していきます。

2月県議会の一般質問、議員活動の近況を今回発刊しました県政新聞「哲也がゆく第7号」に綴りました。多くの皆様方に最後まで「ご一読いただければ幸いです。



福島県議会議員

渡辺てつや

福祉公安常任副委員長

3月19日に閉会した2月県議会においては、一般質問で登壇する機会をいただきました。安全・安心な県づくり、農林水産業の振興など、ライフワークとして長年訴え続けてきたことのほか、県議選で公約とし、有権者の皆様方に実現に向けた努力を約束した問題などについて県立局の考えをいただきました。再生可

県政新聞Vol.7の紙面

ごあいさつ 1
一般質問 1~2
てっちゃんの目⑦ 四季の里 1
要望が実現しました 2
自民党県会報告 3
てっちゃんCalendar 4
コラム 4
てっちゃんネル! 4

てっちゃんの目⑦
四季の里

福島市荒井地区にある福島市を代表する公園施設です。公園の広さは約8ヘクタールで、清流・荒川、水林自然林に近接し、吾妻連峰を望む公園の立地環境は大きな魅力です。福島大学の1年生だった平成7年7月にオープンしました。在学時、授業の合間などに友人と訪れた日々が今でも懐かしく思い出されます。現在も、福島県の風評払拭を目指し、キャンプなどを通して県産食材の魅力を発信するイベント「PLAY PARK」など、四季の里で開催するイベントに参加することで、同施設への愛着を深めています。先日、許可をいただき、自身のYouTubeの撮影も同所で行いました。今年3月には、四季の里の東側に、福島市唯一の造り酒屋「金水晶酒造」が新酒蔵「金水晶四季の蔵」を開所しました。四季の里、新たな酒蔵を通して、県内外の観光客に福島の魅力を知ってもらえる機会が増えることを大いに期待しています。



電子納付きよう開始
県北皮切り、全県拡大へ

県は1日から、県に納め、窓口に出向いたり、時合わせて、キャッシュレスの使用料や手数料の一部を納付可能な使用料や手数料を、コンビニやスマートフォンで納付できるようにする。納付できるようにする。1件当たりの金額が30万円以下で、納入通知書にバーコードが印字されたものを対象とする。県庁と、県北地方振興局や県北保健所、県立学校など6種類の機関が対象となる。県は、このほか、運転免許の更新やパスポートの申請などにも「収入証紙」に代わる納付方法についても検討を進め、県民の利便性向上を図っていく。渡辺議員の質問に中島博会計管理者・出納局長が答えた。

令和6年3月1日(金) 福島民友 5面



自民党

第209号

県会報告

2月県議会 定例会

会期 2月14日(水)～3月19日(火)

物価高騰対策や防災力の強化等の重要課題に全力で取り組む

2月定例会は2月14日から3月19日までの35日間の日程で開会され、令和6年度一般会計当初予算や、県政当面の重要な案件について審議し、条例や意見書など123件を可決いたしました。自民党議員会からは、代表質問1名、追加代表質問1名、一般質問5名、総括質問4名が登壇し、令和6年度の県政運営や、災害に強い県づくりのための防災力の更なる強化に向けた取り組みについていたしました。

令和6年度予算の主な内容については以下の通りです。



自民党議員会が提出し可決した意見書

- 物価上昇に負けない中小企業の賃上げの実現を求める意見書
- 教育現場におけるALPS処理水の理解醸成に向けた取組の更なる強化を求める意見書
- 食料安全保障の強化を求める意見書

令和6年度一般会計当初予算 1兆2,381億円 うち復興・創生分 2,394億円

【主な内容】

- 福島県営農再開支援事業(32億5,398万円)
- ふくしまおいしく減塩緊急対策事業(6,304万円)
- 結婚・子育て応援事業(3億7,554万円)
- ふくしまを創る若者のプラットフォーム構築事業(4,281万円)
- ICT等を活用した介護現場生産性向上支援事業(2億8,777万円)
- 台風・大雨災害からの復旧【公共事業】(24億9,730万円)
- ふくしま若者Uターン促進プロジェクト事業(3,500万円)
- 風評・風化対策強化事業(1億1,769万円)

代表質問 (令和6年2月21日)



自民党議員会を代表して、**矢吹貢一幹事長**(いわき市選出)が登壇し、代表質問を行いました。

◎地域公共交通の維持・確保にどのように取り組んでいくのか。

△内堀知事

急激なバス路線の廃止・減便に伴う通勤・通学等への影響を考慮し、代替交通の運行経費に対する補助を拡充するほか、デマンド交通等の実証運行に対する補助対象期間の延長や、大型二種免許の取得費用等に係る補助制度を新たに創設し、今後とも、地域公共交通の維持・確保にしっかりと取り組んでいく。

◎県産農林水産物のブランド力強化にどのように取り組んでいくのか。

△内堀知事

今年度、県北のもも、会津のアスパラガス、いわきのねぎの三つの産地ごとに最適に組み合わせた対応策として、「ならではプラン」を関係団体等とともに策定した。さらに、これらの産地に加え、きゅうり、ピーマン、いちご、あんぼ柿、かすみ草の五つの産地でプランの策定を新たに進めるなど、今後も県産農林水産物のブランド力強化に総力を挙げて取り組んでいく。

◎県教育委員会は、教職員の働き方改革にどのように取り組んでいくのか。

△教育長

各学校において教職員同士が業務の改善策を提案・検討し、勤務時間外の児童生徒への対応等について、保護者や地域の方々の理解を得ながら、役割分担の見直しを進める。また、全ての公立学校へのスクール・サポート・スタッフの継続配置や県立学校への自動採点システムの導入など、教職員の負担軽減を図ることで、働き方改革に取り組んでいく。

◎気候変動の影響への適応策をどのように推進していくのか。

△生活環境部長

農業関係者へのアンケート等の結果では、多くの県民が近年の気温上昇を実感し、米の品質低下など、農林水産物への影響を懸念していることが明らかとなった。このため、熱中症対策に関する取組を強化するとともに、気温上昇が農林水産物に及ぼす影響を分析し、発信するなど、引き続き気候変動の影響への適応策の推進に取り組んでいく。

自民党議員会の活動

政策先進県視察調査

1月24日～26日と1月30日～2月1日の日程で、沖縄県・大阪府と和歌山県・大阪府をそれぞれ訪問し、政策先進地の視察調査を行いました。今回の視察・調査の成果を施策に反映させ、県政の進展に努めてまいります。

1班

1/24

1/26

- 教育研究を通じた地域振興と自立的発展【沖縄科学技術大学院大学(OIST)】
- GODACの取組について【GODAC国際海洋環境情報センター】
- 沖縄MICE振興戦略の取組について【沖縄県庁】
- 沖縄国際物流ハブについて【ANA Cargo沖縄】
- 産学連携によるオープンイノベーションセンターの取組【国立循環器病研究センター】



2班

1/30

2/1

- ワーケーションの推進による関係人口の創出【和歌山県庁】
- 観光振興の取組について
- 白浜町の観光資源の視察【南紀白浜観光協会】
- 南紀白浜空港のコンセッション【株式会社南紀白浜エアポート】
- 大阪・関西万博について【近畿経済産業局、日本国際博覧会協会】
- 自民党大阪府議会議員団との意見交換【大阪府議会】



福島第一原子力発電所視察

1月31日、東京電力福島第一原子力発電所を視察しました。昨年8月から開始されたALPS処理水の海洋放出の進捗や処理水を使った海洋生物の飼育施設、廃炉作業の現状などについて確認しました。

意見交換では、廃炉作業の安全確保とともに、処理水放出に関する正確な情報発信に取り組むよう求めてまいりました。



てっちゃん calendar

2023.12-2024.3



2024年2月

長年にわたり、民生委員児童委員を務め、昨秋の叙勲で瑞宝単光章を受章された飯坂町の安齋さと子さんの受章祝賀会に出席しました。地域の福祉向上等に尽力された安齋さんをはじめ、活動を支えた夫の忠作さんらご家族に感謝の思いを伝えました。



2023年12月

母校・学法福島高ラグビー部が3年ぶり3度目の全国高校ラグビー大会出場を果たしました。ラグビーの聖地「花園」出場を前に、松原光学校長、高宮康平同主将らとともに、県庁に内堀雅雄知事を表敬訪問しました。



2024年3月

福島市で開かれた第16回全日本総合武道選手権大会の開会式に出席しました。大会の最高顧問を務めています。今年も全国各地から参加した選手たちが勝利を信じて、最後まで諦めずに努力を重ねた成果を発揮していました。本県復興を後押しする同大会の運営に尽力されている菊地信弘大会会長をはじめ、関係各位に敬意を表しました。



2024年1月

福島市消防団の出初め式に出席しました。福島駅前で行われた挙式には、大勢の市民も沿道に駆け付け、堂々とした行進などに拍手を送っていました。消防団の皆様はいつの時代も子どもたちのヒーローと思った一日となりました。消防団の方々が安心して活動できる環境整備に全力で取り組みます。



2024年1月

2024年の活動は元日早朝、福島市内の神社の神事への出席からスタートしました。例年通りの活動開始ですが、今年はコロナ禍が明けたこともあり、地域内の町内会に出席させていただくことも増え、人口減少対策など県政の2024年の方向性などについて話しました。

YouTube Channel 【てっちゃんネル!】

哲也がゆく!!

福島県高級水産ブランド
【常磐もの】
BBQで美食



SUBSCRIBE



てっちゃんネル第10回目、2024年第一弾!
福島県の水産ブランド「常磐もの」を
BBQで美味しくいただきました。



最新情報はオフィシャルSNSで随時更新します
フォロー・チャンネル登録をお願いします



渡辺てつや Official website
<http://www.watanabe1976.jp/>



X (旧Twitter)
https://twitter.com/tetsu_wata1976



YouTube Channel 【てっちゃんネル!】
https://www.youtube.com/channel/UCXqHlylesHDjFb_xXHk9r7A/featured

facebook

<https://www.facebook.com/watanabe1976>



Instagram

https://www.instagram.com/tetsu_wata1976/



コラム Vol.7

▼ 広辞苑で「向く」という言葉を調べると、「その方向に進む」との解釈が出てくる。また、別の辞書で「向ける」という言葉からは「その方向を目指す」という説明が出てきた。いずれにしても、物事を後ろから後押しするような言葉に感じている。

▼ 2月県議会の一般質問で、国道399号飯坂東バイパス(仮称)の整備について、県の考えをたじた。「整備に向けて必要な調査を計画的に進めていく。県土木部長の答弁。またも事業着手の明言を得ることは出来なかったが、「整備に向けて」の6文字が加わった。

▼ 国道399号は福島市北部の交通ネットワークの中心的な役割を担う幹線道路で、飯坂町字銀杏地区内から飯坂町湯野地内間のバイパス整備は地域住民の長年の悲願だ。「自分の元気なうちに国道399号のバイパスを整備してほしい」。高齢者の方々から寄せられる思いは切実で、早期整備を求めて地元選出議員として繰り返し訴えてきた。

▼ 福島市北部の道路状況は相馬福島道路の全線開通などの影響で交通量が増加し、果樹地帯でも朝夕の交通渋滞が発生している現状がある。伊達市に建設中の大型ショッピングセンターのオープン後の交通量の増大を懸念する声もある。「整備に向けて」の6文字が「整備する」の4文字に変わるその日まで頑張っていきたい。(渡辺哲也)